

## 特色ある教育実践についてのフィールドワークプログラム

### 背景・目的

本研究は、教育実践への直接的アプローチによって、その営為や事象を理解し、教育的視野を広げるとともに、そこでの体験をもとにして、自らの実践の創出やキャリア形成を行う学習プログラムの構築を目指すものである。現代の多様で流動的な教育事象に対応していくためには、現場での体験的理解をとおして得られた経験知(体験知)の活用が有効な手立てとなる。

そこで、今回は、国内外に二つのフィールドワークを設定することとした。一つは、PISAにおける学力上位国でその教育方法が注目されているフィンランドの教育を理解するプログラムで、もう一つは、多くの学生に就職先として注目されている東京・神奈川・千葉地区の小学校教育事情を理解するプログラムである。

### 実施内容

#### 1. フィンランド学校事情研修

3月上旬(7泊10日)にヘルシンキの各種教育施設を訪問するプログラムでは、フィンランドの教育の現状と課題について多面的に理解することをねらい、①実践内容の観察、②子どもたちとの交流、③行政担当者からのレクチャーなどを実施した。また、文化的施設の訪問や自然体験などをとおして、フィンランドの歴史、文化、自然に対しても理解の深化を図った。

一例をあげると、クオッパヌミ・スクールセンターでは、幼稚園から中学校までの教育施設にて授業の観察をし、教員・行政担当者からのレクチャーを受けた。また、ホスマリンピスト幼稚園・小学校では、保育・授業の観察の後、学校長によるレクチャーを受講。さらに森の幼稚園やエイラ幼児教育施設では、幼児との交流と保育実践の観察をし、実際に保育活動にも参加した。ロヴ

アニエミ市内においては、フィンランドの自然、文化に触れる体験も行った。



図1(1年生のクラス) 基礎的学習場面

#### 2. 関東地区小学校見学研修

2月の中旬(1泊2日～2泊3日)に関東地区の小学校とその教育事情を視察調査するプログラムでは、東京・神奈川・千葉の4小学校を見学し、地域とその教育環境について理解するとともに、この地区で採用され教員をしている卒業生(第一期生)との講話・懇談をとおして情報交換を行った。また、今回は、教育・文化施設での見学やWS参加、町歩きをとおしての地域理解などのプログラムも実施した。

小学校では、教員や教育委員会担当者から、それぞれの教育事情について説明を受けるとともに、実際に教室実践に参加し、子どもたちとの交流も行った。その後のOGを交えたセミナーで、各地区について報告を行い、情報の共有を図った。

### 結果及び考察

本件が、参加者の教育従事者としての教養の深化とキャリア形成に大きく寄与していることは、成果物やその後の取組の姿勢から明らかといえる。今後は、実施の時期及び期間、地域、形態などを検証するとともに、本学科の教員養成カリキュラムにおける位置づけを再度確認し、全体的な再構築を含めて、より効果的なプログラムの作成を進める必要があるといえる。